Society of Japan Science Teaching

学校教育における自然体験活動の効果と課題

-兵庫県『自然学校』での実践事例について-

○畑　裕介（大阪教育大学），畦　浩二（大坂教育大学）

キーワード：生きる力，自然体験活動，自然学校

Ⅰ．はじめに

新小学校学習指導要領では「生きる力」として「確かな学力」,「豊かな心」,「健やかな体」をバランスよく育むことが教育理念に掲げられ，ボランティア活動や自然体験活動の必要性が述べられている。それに合わせて，平成20年7月1日に閣議決定された教育振興基本計画において「小学校で自然体験・集団宿泊体験を全国の児童が一定期間実施できるように目指す」とされ，文部科学省は宿泊体験活動の学校教育への導入に力を入れている。

本研究は昭和63年度より開始されて以来,約20年の歴史を持ち，兵庫県の小学5年生全員を対象に実施している自然体験活動『自然学校』を事例に，自然体験活動が参加児童の「生きる力」に与える効果と課題を明らかにすることを目的とした。

Ⅱ．研究方法

●研究対象：

対象学校	神戸市立W小学校	篠山市立O小学校・S小学校
対象学年	5年生(64名)	5年生(58名)
活動日	2010年6月8日～12日	2010年6月21日～25日
活動場所	兵庫県東鉢伏高原	兵庫県佐津海岸

●方法：『自然学校』の実施前後で，以下の2つのアンケート調査①，②を行った。

①IKR調査：IKR評定用紙簡易版（橘 直隆 2003）を用いて，『自然学校』の「生きる力」に与える効果を検証する。質問項目は28項目あり，14項目の下位指標,3つの上位指標で構成される。

②理科学習プログラム達成度調査：『自然学校』で実施された本プログラムの学習効果を検証する。

●分析：調査①は6段階回答を点数化し，また調査②は正解数を求め，それぞれ t 検定を行った。

Ⅲ．結果

①IKR調査

『自然学校』実施後，IKR調査での得点値は2つの対象学校とも有意に高くなった（表1）。また，「心理的社会的能力」，「徳育的能力」，「身体的能力」の3つの上位指標を比較すると，W小学校では「心理的社会的能力」が有意に高まったが，O小学校・S小学校では3つの上位指標すべてが有意に高くなった。

表1. IKR得点値の調査結果

	プレ調査	ポスト調査	p値
W小学校(n=64)	4.555	4.685	0.0234*
O小学校・S小学校(n=58)	4.216	4.448	0.0000**

(*: $p<0.05$　**: $p<0.01$)

②理科学習プログラム達成度調査

W小学校で実施した理科学習プログラム『夜空を見上げると』の実施前後で，星座名の知識度と夏の大三角の理解度を比較すると，両者はともに有意に高くなった（表2）。

表2. 理科学習プログラム達成度調査結果（W小学校 n=64）

	プレ調査	ポスト調査	p値
星座名(正解数)	12.469	14.047	0.0015**
夏の大三角(正解者)	15	26	0.0017**

(**: $p<0.01$)

Ⅳ．考察

今回の『自然学校』は，参加児童の「生きる力」の向上に効果があった。しかし，実施するプログラムの内容や学校間によってその効果に違いが認められた。このことから，参加児童の体験活動の実態を踏まえたプログラムを構成していく必要がある。さらに「確かな学力」を育成するために，自然体験活動の中に児童が「学校知」を確認したり，活用したりする場を設定することが求められる。

NII-Electronic Library Service